

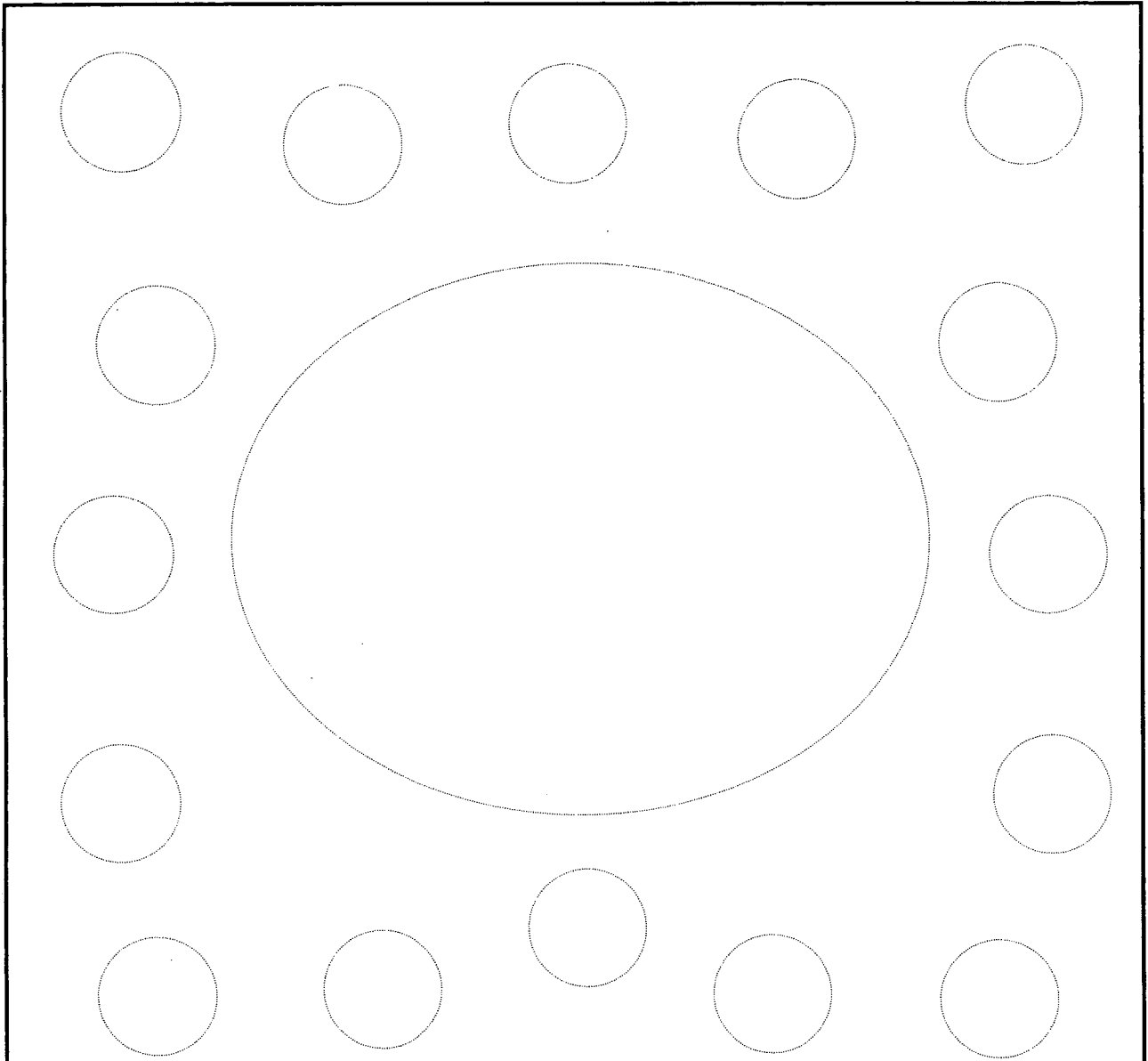
<親・養育者の育児力のアセスメント項目>

	親・養育者の育児力	育児力のリスク				備考
		あり	なし	不明	該当なし	
基本的な養育	親は、子どもに十分な食べ物や水分(離乳食やミルクなど)を与えていない					
	親は、子どもをほぼ毎日入浴させていない					
	親は、毎日、子どもの歯磨きや歯の手入れをしていない					
	親は、子どもに天候や季節に適した衣類を着せていない					
	子どもの衣類はおしっこ、よだれ、食べ滓などで汚れている					
	親は、おむつを規則的に取り替えていない					
	親は、子どもの寝具を清潔にしている					
	親は、子どもに必要な健診・予防接種をきちんと受けさせていない					
	親は、医療や保健サービス(健診、相談等)を子どもの状態に合わせて選択できない					
	親は、子どもに安全で発達段階に応じたおもちゃや遊びを与えていない					
	親は、子どもが泣いているとき、たいていは容易になだめることができない					
子どもには主たる養育者がおり、親身に子どもの世話をしていない						
安全確保	怪我をしたらずきちんと手当てをしていない					
	親は、子どもの事故防止のための対処をしていない(誤飲、火傷、転落等)					
	親は、子どもの身体の状態について常に気を配っていない					
	親は、家の中に子どもが安全に遊べる場所を設けていない					
	親は、屋外の遊び場が安全であると確認をしていない					
	家の中でも外でも大人によってきちんと子どもを見守っていない					
	親は、子どもを独りきりにする					
	親は、子どもを叩いたり蹴ったりする					
	子どもが親に甘えるなどの情緒的要求を示し、それに応えるのが大変だと感じたとき、親は、他者に援助や助言を求めることができない					
	親は、子どもに年齢、性別に応じた服装をさせていない					
	親は、子どもが親しくて信頼できる人と、見知らぬ人との区別ができるように助けていない					
	きょうだいは子どもに対して暴力をふるう					
親は、子どもときょうだいの相互関係を見守っていない						

	親・養育者の育児力	育児のリスク				備考
		はい	なし	不明	該当なし	
情緒的な温もり	子どもが目覚めているとき、親または世話をする人がいない					
	子どもが病気になったとき、親は適切な世話ができない					
	親は、子どもが一生懸命接したり、話そうとすることに対応しない					
	親は、子どもとのコミュニケーションを楽しんでいない					
	親は、子どもとのスキンシップを楽しんでいない					
	子どもが何かを達成したときに、親はそれを共感しない					
	親は、子どもが悲しいときは慰めない					
	親は、子どもに、しばしば叱責や非難をする					
	親は、大切に思っているのだということを、子どもに示していない					
	親は、子どもの要求を敏感に感じることができない					
親は、家族同士が思いやるような関係づくりをしていない						
刺激	親は、子どもを規則的に外へ連れて行かない					
	親は、子どもと一緒に歌ったり、遊んだりしない					
	親は、子どもが興味や関心をもって行動していることをやめさせる					
	親は、子どもに感情をぶつける					
	親は、子どもが他の子どもと遊ぶ機会を多くつくっていない					
	親は、子どもの年齢に応じて、自分のことは自分でするように言わない					
	親は、子どもの年齢に応じた簡単な選択をさせない					
	親は、子どもを連れて、家族の友人や親戚を訪ねない					
指導としつけ	親は、子どもの年齢に応じたトイレトレーニングをしていない					
	親は、子どもが十分に眠れるように配慮していない					
	親は、肯定的な態度で子どもの行動を促さない					
	親は、子どもの行動に関して家庭のルールを示していない					
	親は、子どもに他人の所有物を尊重するように教えていない					
	親と他人との関係が子どもにとってよい規範となっていない					
	親は、子どもが順番を守ることを教えていない					
	親は、子どもに暴力的、残酷な行動はしないように言っていない					
安定性	親は、子どもに規則正しい日常生活をさせない（食事時間、就寝時間、入浴時間など）					
	親は、子どもの行動に一貫した態度で接しない					
	家庭のルールは、家族間で統一されていない					
	親は、子どもを家族の一員として受け入れ、家族の集まる時（誕生日会、外食など）の仲間に入れていない					
	子どもが親から離れるときには、（また会えるのだと）安心できることばかけをしていない					
	子どもは、少なくとも1人の大人と安定した関係を継続的にもっていない					

ジェノグラム・エコマップ

作成年月日 年 月 日



<家族と親族・近隣・友人・公的機関等とのかかわり>

- 家族と、親族・友人・近隣の支援(実際的な援助、金銭的な援助、情緒的な支援、情報提供と助言 等)
- 家族と、親族・近隣・友人との関係性(地域で孤立、隣人・周囲とのトラブルがある、家族は地域の中で受け入れられていないと感じている 等)
- 家族と公的機関・民生委員等の支援と関係性(利用できる地域の資源があるか、家族は地域の資源を活用しているか、公的機関の支援の拒否・無視・訪問ができない 等)

〔参加者番号 _____ 〕

保健師のための研修会(事例検討会)継続支援用フォーマット

<プロフィール>

作成年月日 年 月 日

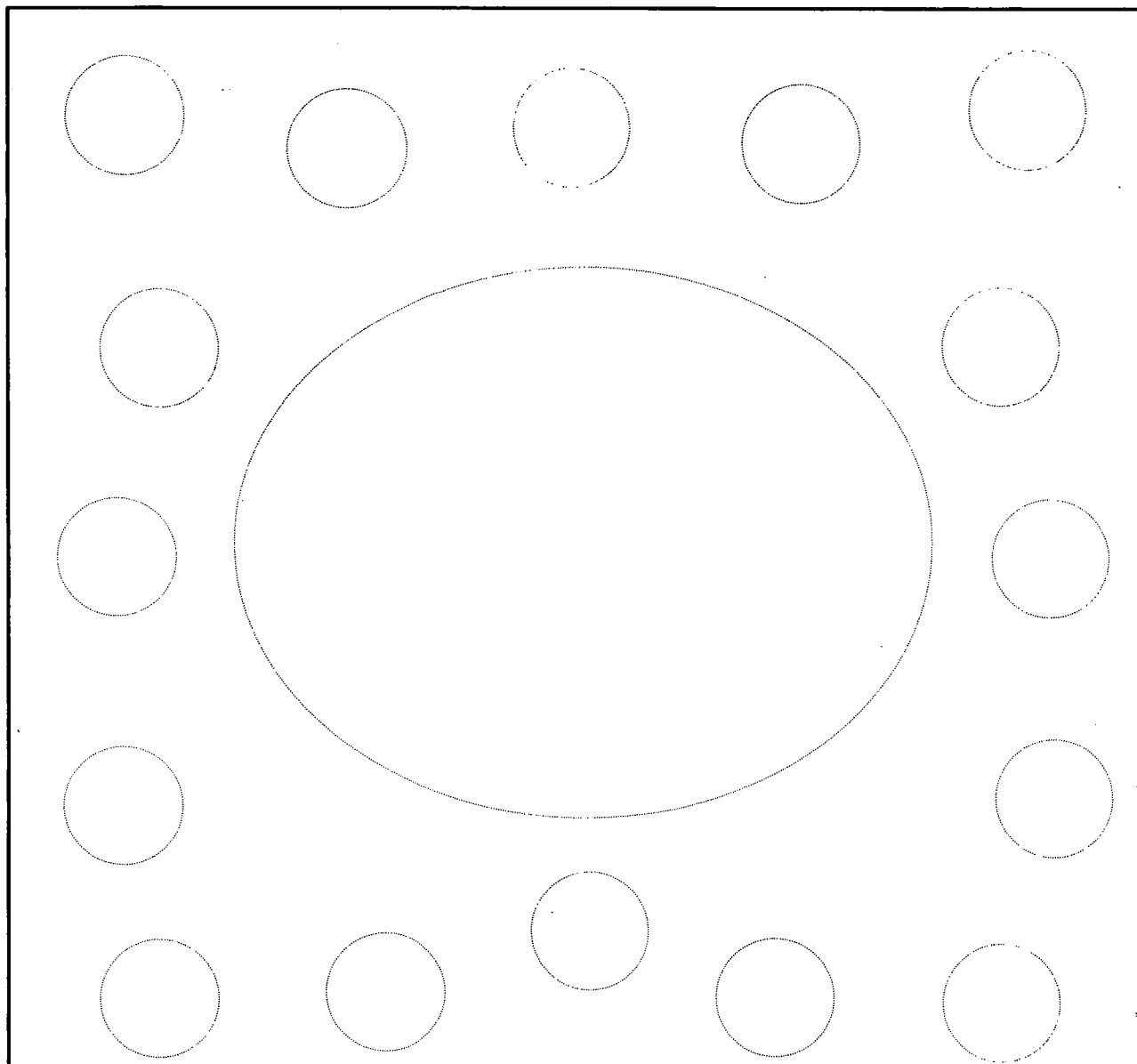
事例のニックネーム	
-----------	--

かかわりの意図	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研修会后、かかわりで意図したこと（具体的に）</div>																																								
支援年月日・方法	<table style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:5%;">①</td> <td style="width:10%;">年</td> <td style="width:10%;">月</td> <td style="width:10%;">日</td> <td style="width:15%;">家庭訪問</td> <td style="width:15%;">来所面接</td> <td style="width:10%;">電話</td> <td style="width:35%;">その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>家庭訪問</td> <td>来所面接</td> <td>電話</td> <td>その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>家庭訪問</td> <td>来所面接</td> <td>電話</td> <td>その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>家庭訪問</td> <td>来所面接</td> <td>電話</td> <td>その他（ ）</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>年</td> <td>月</td> <td>日</td> <td>家庭訪問</td> <td>来所面接</td> <td>電話</td> <td>その他（ ）</td> </tr> </table>	①	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）	②	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）	③	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）	④	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）	⑤	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）
①	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）																																		
②	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）																																		
③	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）																																		
④	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）																																		
⑤	年	月	日	家庭訪問	来所面接	電話	その他（ ）																																		
支援の経過と具体的な内容	①について ②について																																								
支援の経過や内容で困っていることや問題点																																									
今後の方針																																									

★アセスメント項目の変化は、色を変えて記入する(変化のないところはそのままで良い)
 2回目:赤 3回目:青
 ジェノグラム・エコマップ

ジェノグラム・エコマップ(継続支援用)

作成年月日 年 月 日



<家族と親族・近隣・友人・公的機関等とのかかわり>

- 家族と、親族・友人・近隣の支援(実際的な援助、金銭的な援助、情緒的な支援、情報提供と助言 等)
- 家族と、親族・近隣・友人との関係性(地域で孤立、隣人・周囲とのトラブルがある、家族は地域の中で受け入れられていないと感じている 等)
- 家族と公的機関・民生委員等の支援と関係性(利用できる地域の資源があるか、家族は地域の資源を活用しているか、公的機関の支援の拒否・無視・訪問ができない 等)

「保健師のための研修会」事前アンケート

〔参加者番号 _____〕

* 以下の質問について、該当する番号に○をつけてください。

- 保健師経験年数..... () 年目
- 母子業務経験年数..... () 年目
- あなたの所属はどちらですか.....①保健所 ②保健センター ③その他()

1. あなたは「マルトリートメント」という言葉を知っていますか。

①知っている ②知らない

→ 1-1)「知っている」と回答された方にお聞きします。

それはどのような機会に知りましたか。該当するものすべてに○をつけてください。

- ①自己学習 ②業務内での研修会 ③業務外での研修会 ④今回の研修会の説明会
- ⑤その他()

2. 現在、あなたが担当されている親子のなかで、マルトリートメントの視点から気になるケースはありますか。また、それは何件ですか。(1世帯1件とする)

①あり()件 ②なし

→ 2-1)「あり」と回答された方にお聞きします。

それはどのようなことが気になるケースですか。該当するものすべてに○をつけてください。

- ①育児に対するストレスが高い ②子育てが未熟・不慣れ ③子どもへの関心が薄い
- ④子どもの扱い方が不自然 ⑤些細なことで子どもに感情をぶつける ⑥人間関係がつくり難い
- ⑦親に精神的な問題がある ⑧生活上の問題・不安がある ⑨子どもの発育・発達に不安がある
- ⑩親子関係が確立していない ⑪子どもの衣服等が清潔感に欠ける
- ⑫その他()

3. あなたは、過去1ヶ月の間に母子を対象にした家庭訪問を行いましたか。また、それは何件ですか。

①はい()件 ②いいえ

→ 3-1)「はい」の方にお聞きします。訪問したケースのなかで、マルトリートメントが疑われるケースや予防のための支援が必要なケースはありましたか。また、それは何件ですか。

①あり()件 ②なし

4. マルトリートメントへの支援を視点においた家庭訪問について、ご自分の現状をどのように思いますか。

①できていない	②あまりできていない	③ほぼできている	④できている
---------	------------	----------	--------

↳ 4-1)「あまりできていない」もしくは、「できていない」と回答された方にお聞きします。

その理由は何ですか。該当するものすべてに○をつけてください。

①時間が足りない	②家庭訪問の方法・技術に不安がある	③地域の中に家庭訪問への偏見がある	④親子支援の方法として家庭訪問の優先順位が低い	⑤その他()
----------	-------------------	-------------------	-------------------------	---------

5. マルトリートメントのための生活支援には保健師にとってどのような知識・技術が必要だと思いますか。よくわからない方は”よくわからない”に○をつけてください。

知識 ()

技術 ()

よくわからない

6. マルトリートメントのための生活支援をする上で、どのようなことがご自分の課題だと思いますか。

()

7. 今回の研修会に期待すること、また疑問や不安なことは何ですか。

()

*ご協力ありがとうございました

「保健師における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究」
～保健師による乳幼児虐待ハイリスク家庭の継続的生活支援方策の検討～
における「保健師のための研修会（事例検討会）」へのご協力をお願い

研究代表者 慶応義塾大学看護医療学部 教授 金子仁子^{かねこまさこ}

晩秋の候、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。

さて、このたび保健師が日夜努力しているマルトリートメント発生予防にむけたより効果的な生活支援の方策を提示することを目的とした研修会(事例検討会)を開催いたします。本研究は、厚生労働科学研究費補助金(政策科学総合研究事業(政策科学推進研究事業))をうけ、研修会はその一部として行います。

研究目的、対象、研修会の方法および内容、研究参加者の権利、プライバシーの保護、研究参加による利益と不利益、研究の発表および公表については下記のとおりです。本研究の趣旨をご理解いただき、保健師のための研修会にご参加いただければ幸いです。

なお、この研究に関するご質問・ご意見等は下記宛にいつでもご連絡ください。

【研究目的】

この研究は、マルトリートメント発生予防の視点から保健師の継続的な生活支援のあり方を検討し、効果的な方法を明らかにするものです。保健師のための研修会は、①保健師によるマルトリートメントの家庭への継続支援内容を検討し、困難や課題の解決策を提示すること、および、提示した解決策の有効性を確認し、②マルトリートメントのBイエローゾーン(2次予防)へのより効果的な継続的生活支援の方策を検討することを目的とした研修会です。

【対象】

研修会の対象は、ご協力いただける市町村の保健師の方です。

【研修会の方法および内容】

研修会開催の期間は、約1年間で開始から4～5回、およそ隔月を予定しております。

研修会の参加については、全回出席いただかなくても構いません。

研修会にご参加いただいた方はひとり1事例を提供していただきます。素材として提供していただく事例の対象となるのは、マルトリートメントのBイエローゾーン(2次予防)で、社会的介入(児童相談所への通告など)には至っていない要支援と判断できる事例です。素材の提供の際には、事前にマルトリートメントの発見機会、家族構成、児の状況、母親の状況、生活状況、社会資源利用状況、保健師の援助経過、援助で課題と感じている内容等をフォーマットに記入をお願いしますが、対象となる個人が特定されない形でご記入いただくことをお願いいたします。

その素材を元に、地域看護や心理学の専門家等との意見交換を行い、生活支援の方策を検討していきます。検討した結果から、提供された素材についての今後の生活支援方策について提案をさせていただきます。

参加者には、研修会で検討された内容を、ご自分の活動にいかしていただく意志をもって参加頂き、提案させていただいた生活支援の方策をどのように活用できたかについて、研修会の中で報告し、その有用性を参加者間で共有する機会とします。また、研修会のはじめと終わりにアンケートにご回答いただき、研修会についての感想、研修会での学び、研修会の内容が自分の活動で役だった点についてお聞かせ願いたいと思います。

研修会の内容は、内容を整理し参加者に確認して頂きます。そのうえで、この研修会の一連の検討内容については蓄積をさせていただきます。

【調査参加者の権利】

研修会への参加は任意であり、ご参加頂く方には継続した参加を願いますが、ご都合等で参加できないことがあってもかまいません。また途中で参加をおやめいただくこともかまいません。

参加者は話したくないことや苦痛に感じることは話す必要はありませんし、研修会を中断したり、話したくないことを断ったりされても、それによってあなたが不利益をお受けになることはありません。

研修会でお話していただいた内容を正確に把握するため、記録（筆記および録音）させていただきますが、参加者は記録を停止、または一時的に停止させることができます。また、希望すればいつでも記録（筆記および録音）を見ることができます。

【プライバシーの保護】

研修会に提供して頂いた素材および参加者の方のプライバシーの保護は厳守致します。研修会では個人が特定されないよう指定された呼び名で呼び、内容は発言者が特定できない形で記録させていただきます。研修会の分析結果から個人および対象地域が特定されることはありません。

研修会の筆記記録、テープ、およびファイルは鍵のかかるロッカーに厳重に保管され、内容はプロジェクトメンバー以外が見ることはありません。筆記記録、テープ、およびファイルの破棄・消去は、研究終了後プロジェクトメンバーが責任を持っておこないます。

【研究参加による利益と不利益について】

研修会に参加することで、時間の損失およびお話しいただく内容により気分が落ち込むこと可能性があります。事前に十分な説明を行うこと、日程および時間の調整を事前におこなうことで時間の節約を図ります。また、参加者の気分が落ち込んだ場合は専門家が個別に対応いたします。本研究への参加により、参加者は自分の活動をどのように展開したらよいかについての示唆を得ることができ、今後の活動につなげられます。また、本研究に協力したことから虐待発生予防の方策について明らかになることで社会貢献につながります。

【研究者の責任の範囲】

研修会で提示する生活支援の方策についてはあくまで提案であり、研究者の提示した方策を参加者が実施または実施しないことにより生じたことに、研究者は責任を負うものではありません。

【研究の公表および発表について】

本研修の成果は、厚生労働科学研究としてまとめ、公衆衛生関連学会等で発表する予定です。

連絡先

慶応義塾大学 看護医療学部 教授 金子仁子 かねこまさこ

〒252-8530 藤沢市遠藤4-4-11

電話・FAX：0466-49-6222

E-mail：masapoo@sfc.keio.ac.jp

浜松医科大学医学部看護学科 教授 三輪真知子 みわまちこ

〒431-3192 浜松市東区半田山1-20-1

電話・FAX：053-435-2831

E-mail：miwama@hama-med.ac.jp

承諾書

「保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究」

～保健師による乳幼児虐待ハイリスク家庭の継続的生活支援方策の検討～

研究代表者 慶応義塾大学看護医療学部 かねこまさこ 金子仁子 様

わたくしは、「保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究」に参加するにあたり、下記の項目について説明を受け、この研究の趣旨を十分に理解いたしました。

よって、「保健師活動における乳幼児の虐待発生予防のための方策に関する研究」～保健師による乳幼児虐待ハイリスク家庭の継続的生活支援方策の検討～における研修会(事例検討会)に参加することを承諾いたします。

- 研究目的
- 対象
- 研修会(事例検討会)の方法および内容
- 調査参加者の権利
- プライバシーの保護
- 研究参加による利益と不利益について
- 研究者の責任の範囲
- 研究の発表および公表について

2007年 月 日

氏名 _____ (印)

住所 _____

厚生労働科学研究費補助金（政策科学総合研究事業（政策科学推進研究事業））

平成 19 年度 総括・分担研究報告書

保健師活動における乳幼児の
虐待発生予防のための方策に関する研究

主任研究者 金子仁子（慶應義塾大学看護医療学部）

連絡先 勤務先住所 〒 252-8530 藤沢市遠藤 4411

勤務先 TEL&FAX 0466-49-6222

e-mail masapooh@sfc.keio.ac.jp

発行日 平成 20 年 3 月 31 日